



株主のみなさまへ

第**79**期 中間報告書

平成30年4月1日 ▶ 平成30年9月30日

経営理念

士魂商才

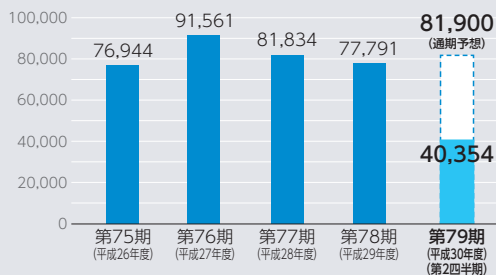
技術のジャムコは、士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めています。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

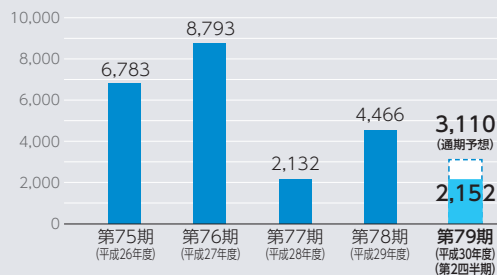
代表取締役社長 **大喜多治年**



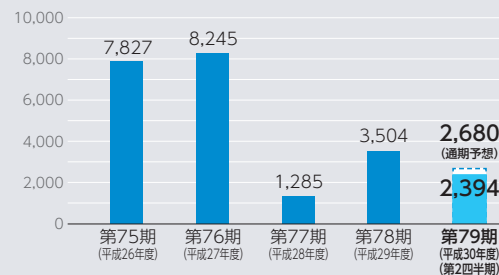
売上高 | (単位:百万円)

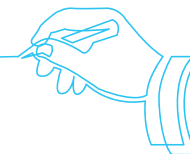


営業利益 | (単位:百万円)



経常利益 | (単位:百万円)





第2四半期の総括

第79期(平成31年3月期)第2四半期連結累計期間の決算は、前年同期比で増収増益となりました。

航空輸送業界では、格安航空会社(LCC)の攻勢による競争の激化が続いている一方、世界的な航空需要の拡大により、大手エアラインは新規運航路線の獲得や客室サービスの向上、LCCへの参画などさまざまな戦略を打ち出しています。

航空機メーカーでは、航空機需要の高まりを背景に、高水準の受注残を維持しており、一部機種を増産計画や燃費効率の向上を目指した新機種の開発が進むなど、航空機市場は引き続き堅調に推移すると見込まれています。又、ボーイング社とエアバス社によるリージョナル機メーカーの戦略的買収が行われるなど歴史的な再編が進んでいます。

こうしたなか当社グループでは、航空機内装品等製造関連においては、生産効率改善に努めると共にボーイング777X型機向けラバトリーの開発を進めました。

航空機シート等製造関連においては、大手エアライン向けファースト・クラス・シートの開発を進めると共に、生産効率改善とコスト削減の取組みを行いました。又、当社スタンダード・シートの受注拡大に努めました。

航空機器等製造関連においては、生産性改善の取組みを進めると共に、航空機エンジン部品の生産量増加への取組みを進めました。

航空機整備等関連においては、飛行安全の確保と品質向上の取組みを継続すると共に、各種サービスの充実と収益改善の取組みを進めました。又、事業領域拡大のため、ANAグループのMRO Japan(株)への資本参加を行いました。

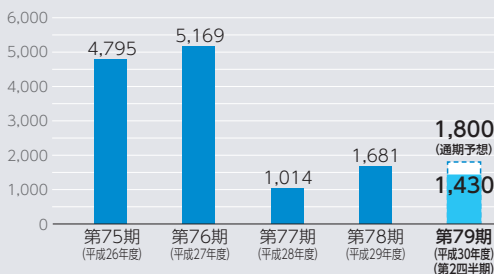
この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高 40,354百万円(前年同四半期比 2,310百万円増)、営業利益 2,152百万円(前年同四半期比 245百万円増)、経常利益 2,394百万円(前年同四半期比 521百万円増)、親会社株主に帰属する四半期純利益 1,430百万円(前年同四半期比 395百万円増)となりました。

今後の見通し

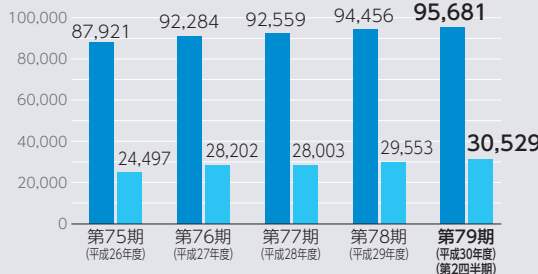
平成31年3月期の通期連結業績予想につきましては、業績予想の前提となる第3四半期以降の為替レートを105円/米ドルから変更していないことから、平成30年11月2日に発表した「業績予想の修正に関するお知らせ」とおり平成30年5月8日に公表した業績予想から変更はありません。

なお、配当につきましては、当初の予定通り中間配当は行わず、今期末の結果をもって実施させていただきますが、1株当たり20円を予定しております。

親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 | (単位:百万円)



総資産/純資産 | (単位:百万円)



自己資本比率 | (単位:%)



世界の空へ、多彩なジャムコデザインを。

2014年度の事業参入以来、当社は各エアライン専用設計の航空機シートを開発してきました。

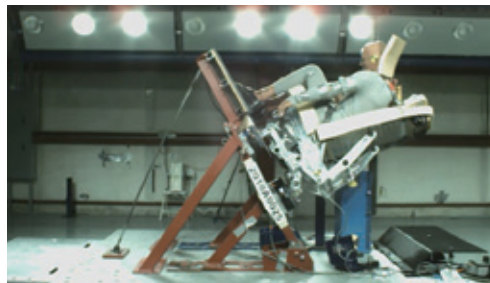
高度にカスタマイズされたシートはその快適性で高い評価を受ける反面、個別に多くの経営資源を必要とするうえに複数社へ拡販できないという問題がありました。

そこで開発したのが自社デザインのシート「Venture」です。仕様やオプションをカタログ設定することで、1つの設計仕様から多様な要望に応えることを可能にしました。

ボーイング社の協力のもと 高機能とコスト競争力を追求しました

開発にあたってはボーイング社と協力し、787型機に合うプロダクト・デザインや、工場ですら効率的に機体へ搬入・取り付けできる設計をしました。又、製造方法や素材についても、生産性を重視した新たなものを採用しました。主力機種である787型機とのマッチングを図ることで、機能面で優位に立つと同時に各エアラインへ展開・普及できるようにと狙ったのです。

航空機用シートは、お客さまの安全を守るための加速度試験をパスすることが必須です。Ventureは新製品で、しかも進行方向に向かって斜めの配置（逆ヘリンボーンタイ



加速度試験

プ)と3点式のシートベルトを初めて採用したため、この試験が大きな関門でした。当社が蓄積したデータをもとに、特に慎重を期して念入りに設計しました。それが実り、早期に試験をパスすることができました。

KLMオランダ航空に採用、 さらにバリエーションを広げていきます



Venture 導入を決めたKLMオランダ航空

2017年に公開したVentureは、2018年4月、KLMオランダ航空が導入するボーイング787-10型機に採用されました。2019年中頃に初号機が引き渡される予定です。

私たちはVentureを、今後開発するシートの共通プラットフォームと位置付け、デザインや機能において高い拡張性を持たせています。

開発担当者
航空機内装品・機器事業本部
技術本部シート技術部
専門部長

板倉 潮



これにより、刻々と変化する各エアラインの要求に柔軟に応えていきます。

一方で当社からの新たな提案として、Ventureをベースとしたコンセプトシートを「Aircraft Interiors EXPO 2018」で公開しました。このシートは、全席を前方外向きに配置することで乗客同士の視線が交錯しないこと、又、従来の逆ヘリンボーンタイプのシートよりも座面とベッド面を拡張していることが大きな特長です。すでにエアライン各社から多くの関心が寄せられています。

今後も、Ventureの技術をもとにしたさまざまなシートを提案し、より多くのお客さまに快適な空の旅を届けていきます。



Ventureをベースにした新たなコンセプトシート

ここがポイント！「Venture」の特長

特長 1 効率的な客室デザイン



対称型ヘリンボーン配置により、客室内の限られたスペースを効率的に活用できます。

特長 2 快適性とプライバシー

フルフラット仕様、18.5インチモニターなどの個別装備に加え、全席が通路に面しており、快適でプライベートな居住空間を確保しています。



特長 3 軽さと価格競争力

複合材を用いた一体成型で部品点数を大幅に削減(45%*)し、軽量化と整備性の向上を実現。航空機の燃費向上も期待できます。

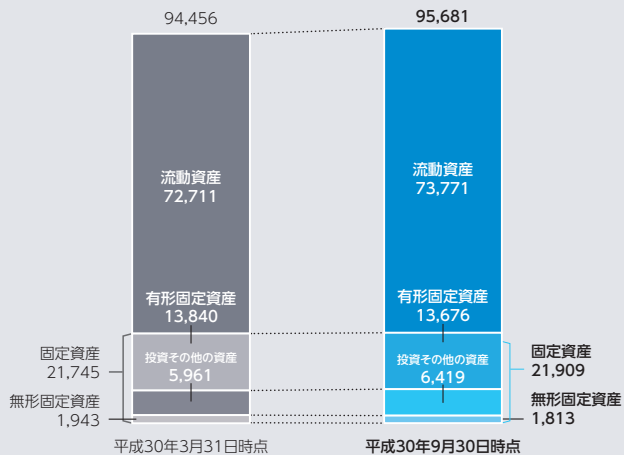
※当社ビジネス・クラス・シート製品比

連結財務 データ

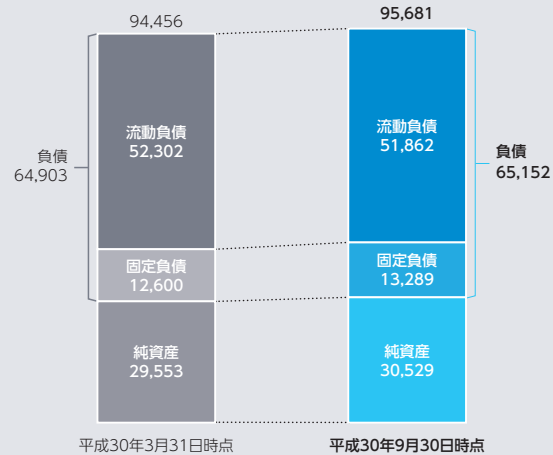
連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

資産の部

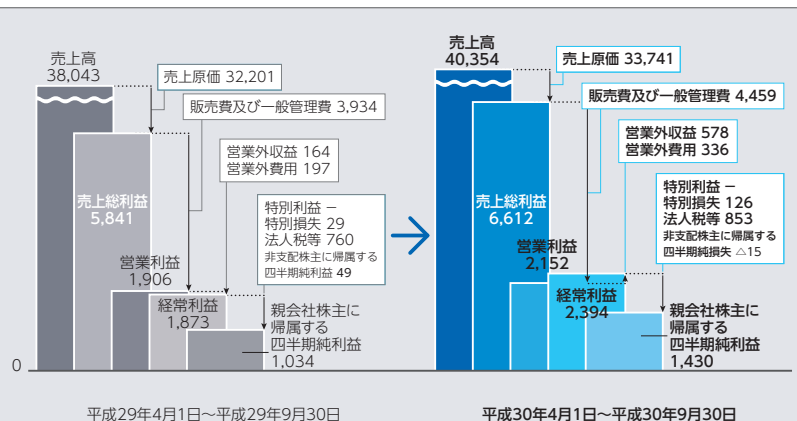


負債・純資産の部



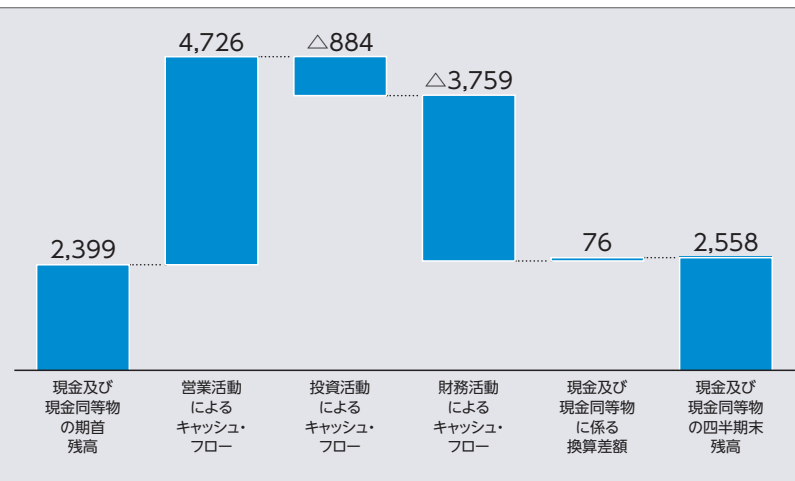
連結損益計算書(要旨) 平成30年4月1日～平成30年9月30日累計

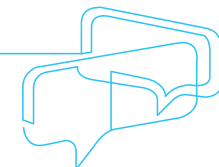
(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) 平成30年4月1日～平成30年9月30日

(単位:百万円)



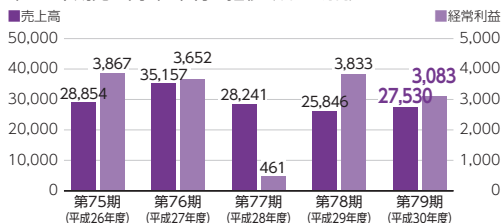


航空機内装品等製造関連

当第2四半期

売上高 **275億30** 百万円
経常利益 **30億83** 百万円

第2四半期売上高・経常利益推移 (単位:百万円)



※ 平成26年度から平成27年度までは、航空機シート等製造事業の経営成績を含んだ数値となります。

当期のポイント

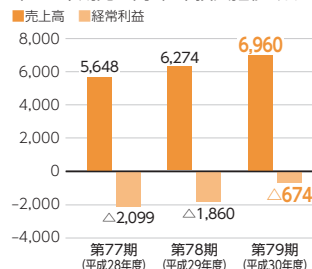
- ボーイング777X型機への移行の端境期で、現行の777型機向けギャレー(厨房設備)・ラバトリー(化粧室)の出荷数が減少
- 777X型機の飛行試験用ラバトリーの出荷
- 客室改修用キットやスペアパーツの販売増加
- 一部プログラムの初期コストの増加などにより減益

航空機シート等製造関連

当第2四半期

売上高 **69億60** 百万円
経常損失 **△6億74** 百万円

第2四半期売上高・経常損失推移 (単位:百万円)



平成28年6月28日付で、従来、航空機内装品製造事業で行っていた客室の座席(シート)の開発・設計・製造の事業を独立させ、「航空機内装品製造事業部」、「航空機シート製造事業部」、「航空機器製造事業部」、「航空機整備事業部」の4つの事業部に再編いたしました。

当期のポイント

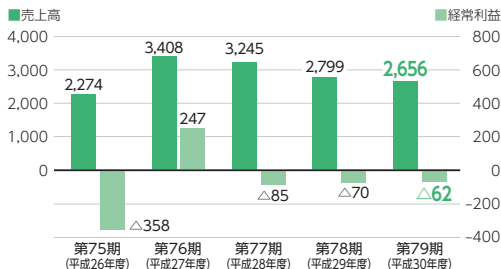
- 大手エアライン向けファースト・クラス・シートの開発を推進
- スタンダード・シートの受注拡大に注力
- 生産効率改善に向けた取り組みなどにより損益が改善

航空機器等製造関連

当第2四半期

売上高 **26億56** 百万円
経常損失 **△62** 百万円

第2四半期売上高・経常利益推移 (単位:百万円)



当期のポイント

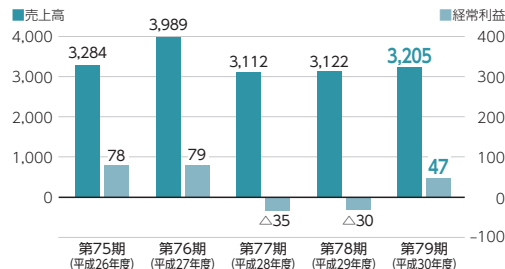
- 航空機エンジン部品の生産量、出荷量が増加
- 熱交換器等防衛関連の出荷の納期変更により減収
- 生産性向上の取り組みの成果により損益は改善

航空機整備等関連

当第2四半期

売上高 **32億05** 百万円
経常利益 **47** 百万円

第2四半期売上高・経常利益推移 (単位:百万円)



当期のポイント

- 飛行安全の確保と品質向上の取組みを継続
- 機体整備が堅調に推移
- 事業領域拡大のため、ANAグループのMRO Japan(株)に資本参加

CSRへの取組み

当社は、ステークホルダーの皆さまとの信頼関係を大切に、社会の期待に応えながら持続可能な社会づくりに貢献できるよう、CSR活動を推進しています。

2017(平成29)年4月にCSR委員会を設置、2018(平成30)年4月には人事総務部CSR推進課へと組織変更して体制を強化してきました。又、CSRへの取組みのさらなる向上を目指して、年に1回CSRレポートを発行しています。当社グループのCSRに対する考え方や課題への取組みなどを報告し、ステークホルダーとのコミュニケーションを図っています。

2018 CSRレポート



2018(平成30)年7月に、「2018 CSRレポート」を発行しました。

CSR活動の詳細は弊社コーポレートサイトをご覧ください。

(株)ジャムコ CSR活動
<https://www.jamco.co.jp/ja/csr.html>

女性の活躍推進

当社グループは、さまざまな背景を持つ社員が活躍できる職場環境を整え、人財のダイバーシティ(多様性)を推進することで、グループの持続的成長とより良い社会づくりへの貢献を目指しています。女性の活躍も推進しており、その一環として女性整備士を積極的に採用、育成しています。

航空機整備事業部機体整備工場の女性整備士から、2015(平成27)年7月に回転翼機の一等航空整備士が、2017(平成29)年4月に固定翼・タービン発動機の一等航空整備士が誕生し、それぞれ活躍しています。



整備工場の女性整備士

CONTRAILプロジェクトへの参画

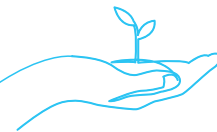
CONTRAILプロジェクトとは、産学官が連携して、地球温暖化をもたらす大気変動のメカニズムを解明する大気観測プロジェクトです。

当社は2003(平成15)年からこのプロジェクトに参画しています。自動大気サンプリング装置(ASE)と二酸化炭素濃度連続測定装置(CME)を開発し、旅客機に取り付けることで地球規模での大気観測データを採取してきました。

この功績が認められ、2017(平成29)年度の地球温暖化防止活動環境大臣賞「国際貢献部門」のほか、数多くの賞を受けています。



地球温暖化防止活動環境大臣賞の授賞式



アイベックスエアラインズ(株)の CRJ700型機の夜間定例整備を開始



CRJ700型機の夜間整備

2018(平成30)年3月26日、アイベックスエアラインズ(株)のCRJ700型機の夜間定例整備を開始しました。

2017(平成29)年に締結した同社とのパートナーシップ協定に基づき、運航後の機体を毎日、仙台空港内で整備しています。

業務開始以来、高い評価をいただいております。今後も複数機の並行受託を目指して社内体制を強化していきます。



「Aircraft Interiors EXPO 2018」に出展



出展した新型コンセプトシート

2018(平成30)年4月10日から12日まで、ドイツ・ハンブルクで開催された展示会「Aircraft Interiors EXPO 2018」に出展しました。

当社はプレミアム・クラス・シート「Journey-Evo」と「Venture」を展示し、KLMオランダ航空での採用を同展示会初日に発表した「Venture」がとりわけ注目を浴びました。又、新たなコンセプトシートを初披露し、来場したお客さまから多数のご意見をいただくことができ、シート事業の拡大に向けて収穫の多い展示会となりました。



ボーイング777X型機向けの ラボトリーを初出荷



初出荷セレモニー

2018(平成30)年5月17日、ボーイング社の最新鋭大型旅客機777X型機向けのラボトリーを初出荷しました。

当社グループによるボーイング社へのラボトリーの供給は、1979(昭和54)年の767型機向けに始まり、現在は747、777、787型機向けに独占供給しています。

今後も同社との強固な協力関係が維持できるよう、高品質な製品を提供しつづけていきます。



MRO Japan(株)に資本参加

2018(平成30)年9月28日、MRO Japan(株)※が実施する第三者割当増資に応じ、資本参加しました。

同社への資本参加により、世界を視野に入れたMRO(Maintenance, Repair & Overhaul)事業の展開を目指す当社航空機整備事業とのシナジー効果が期待されます。

増資後の会社概要

本店所在地: 沖縄県那覇市
 資本金: 10億円
 株主構成: ANAホールディングス(株) 45%、
 (株)ジャムコ 25%、三菱重工業(株) 20%、
 特殊法人 沖縄振興開発金融公庫 2%、
 (株)琉球銀行 2%、(株)沖縄銀行 2%、
 (株)沖縄海邦銀行 2%、沖縄電力(株) 2%

※MRO Japan(株)は、東南アジアの中心に位置する那覇空港の地理的優位性と地域のサポートを活かしながら、さらなる拡大が見込まれる国内外の航空機整備需要を取り込むことで、日本を代表する航空機整備専門会社を目指しています。

会社概況／ 事業拠点

会社概況

会社概要 (平成30年9月末現在)

商号	株式会社ジャムコ
本店	東京都三鷹市大沢六丁目11番25号
本社	東京都立川市高松町一丁目100番
設立年月日	昭和24年3月15日
創立年月日	昭和30年9月1日
主な事業内容	航空機内装品等製造関連 ギャレー、ラバトリー、ギャレー搭載用各種装備品等の製造 航空機シート等製造関連 航空機シート及びシートコンソール等の製造 航空機器等製造関連 熱交換器、航空機用炭素繊維構造部材、民間航空機エンジン部品等の製造 航空機整備等関連 航空機、装備品等の整備・改造
資本金	5,359,893千円
従業員数	連結:3,183名 個別:1,212名

役員／執行役員 (平成30年6月27日現在)

代表取締役社長	大喜 多治年	常務執行役員	青木 康成
代表取締役副社長執行役員	大上 克裕	常務執行役員	粕谷 寿久
取締役専務執行役員	木村 敏和	常務執行役員	市原 一義
取締役専務執行役員	加藤 正道	常務執行役員	西宮 和夫
取締役常務執行役員	後藤 健太郎	執行役員	伊田 幸男
取締役常務執行役員	田所 務	執行役員	内城 浩
社外取締役	大崎 直哉	執行役員	阿部 行雄
社外取締役*	野口 利彦	執行役員	秋葉 英二
社外取締役*	鈴木 伸一	執行役員	脇 昭博
常勤監査役	渡辺 樹一	執行役員	神山 行雄
常勤監査役	磯上 範好		
社外監査役*	大倉 敏治		
社外監査役*	河村 寛治		
社外監査役*	木須 芳紹		

*東京証券取引所の規定する独立役員です。

事業拠点 (平成30年9月末現在)

事業所／子会社／関連会社一覧

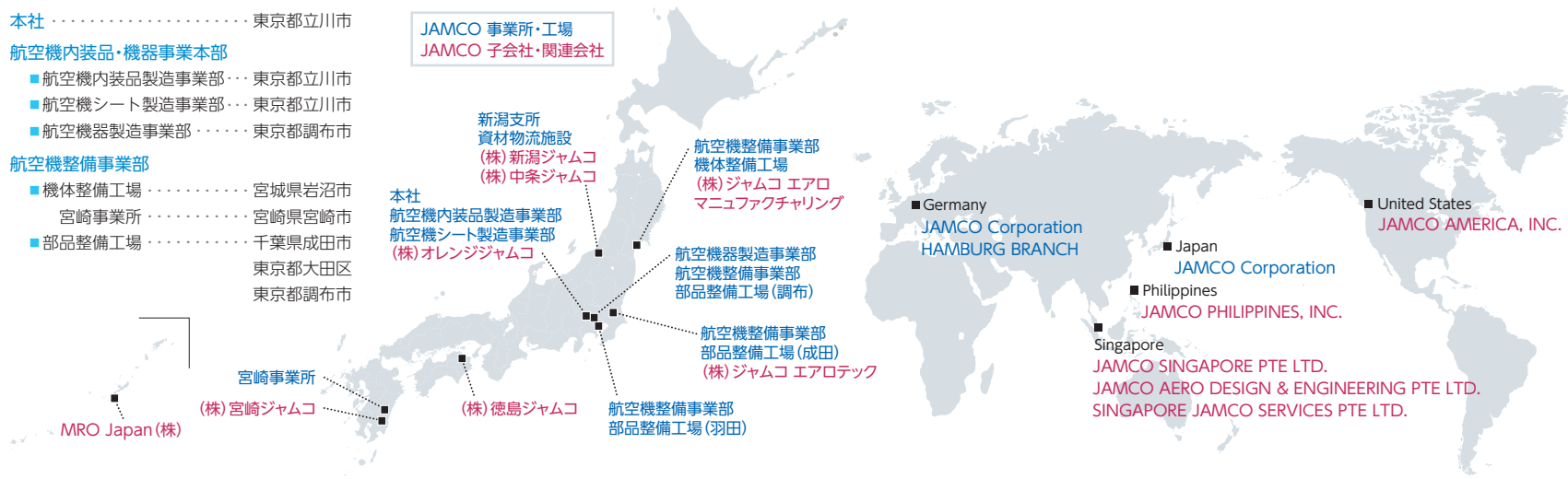
本社 東京都立川市

航空機内装品・機器事業本部

- 航空機内装品製造事業部 東京都立川市
- 航空機シート製造事業部 東京都立川市
- 航空機器製造事業部 東京都調布市

航空機整備事業部

- 機体整備工場 宮城県岩沼市
- 宮崎事業所 宮崎県宮崎市
- 部品整備工場 千葉県成田市
- 東京都大田区
- 東京都調布市

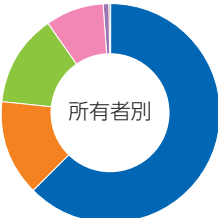


株式の状況／ 株主メモ



株式の状況 (平成30年9月末現在)

株式数・株主数・上場取引所	
発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	26,863,974株
株主数	4,366名
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部(証券コード7408)

株式分布状況		
	■ その他の法人	16,796,600株 62.52%
	■ 外国法人等	3,820,811株 14.22%
	■ 個人・その他	3,668,616株 13.66%
	■ 金融機関	2,347,400株 8.73%
	■ 金融商品取引業者	191,747株 0.71%
	■ 自己名義株式	38,800株 0.14%

大株主 (上位10名)		
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	8,956	33.38
ANAホールディングス株式会社	5,373	20.03
昭和飛行機工業株式会社	2,003	7.46
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	1,001	3.73
ジャムコ従業員持株会	392	1.46
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	349	1.30
BNYMSANV RE BNYMIL RE LF RUFFER PACIFIC FUND	300	1.11
JP MORGAN CHASE BANK 385166	286	1.06
JP MORGAN CHASE BANK 385632	239	0.89
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	237	0.88

(注) 持株比率は自己株式(38,800株)を控除して計算しております。

株主メモ	
事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公 告 の 方 法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.pronexus.co.jp/koukoku/7408/7408.html (但し、電子公告によることができない事故、その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。) なお、計算書類及び連結計算書類に係る情報は、インターネット上の当社コーポレートサイト (https://www.jamco.co.jp/) においてご覧いただけます。

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできません。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にお問い合わせください。



名取市の特徴

宮城県名取市は仙台市の南東に位置する、美しい自然に囲まれた街です。東洋経済新報社が毎年公表している「住みよさランキング」では2018(平成30)年の全国総合3位に選ばれました。

市内には仙台空港があり、東北の空の玄関として、より活発な経済活動や国際拠点としての展開も期待されています。

ジャムコエアロマニュファクチャリングについて

(株)ジャムコエアロマニュファクチャリングは、当社グループの航空機器製造事業の中核

拠点で、炭素繊維構造部材及び航空機用エンジン部品の製造を担っています。

同社で製造する炭素繊維構造部材は、A220及びA350型機を除くすべてのエアバス旅客機で垂直尾翼の主要構造部材として採用されており、A380型機では2階床構造部材にも使用されています。この部材の製造には、当社が独自に開発し特許を取得した、プリプレグを用いた炭素繊維複合材(CFRP)の連続成形製法(ADP: ADvanced Pultrusion)を採用しています。又、最新鋭のA350型機向け貨物室床下構造部材については、ADP製法とは異なる成形技術を用いて製造、供給しています。

航空機用エンジン部品については、多くのリージョナルジェット旅客機で採用されているCF-34型エンジンのタービンを保護するタービンシュラウドやエンジンを冷却するためのクーリングマニホールドをはじめ、高い精度と品質が求められる多種多様な品目の製造を行っています。

中長期的な旅客の需要拡大に伴い、航空業界は今後さらなる成長が見込まれます。(株)ジャムコエアロマニュファクチャリングは、これからも世界のお客さまに安全で快適なフライトを提供できるよう、高度な特殊工程と製造技術を駆使して高品質な製品を供給し続けます。



株式会社ジャムコエアロマニュファクチャリング

住 所	宮城県名取市愛島台7丁目101番地の36
設 立	2013(平成25)年1月
敷 地 面 積	41,621㎡
(用地面積)	(58,800㎡)
工場延床面積	12,555㎡
主な生産品	航空機用エンジン部品、航空機用炭素繊維構造部材など
主 な 設 備	オートクレーブ2台、炭素繊維構造部材成形ライン7台、真空炉1台、機械加工設備30台



株式会社 ジャムコ

〒190-0011 東京都立川市高松町一丁目100番地
TEL:042-503-9900(代表)
TEL:042-503-9145(IR 経理財務部)
TEL:042-503-9146(広報 経営企画部)

※ 本資料に記載されております当社の計画や予測等は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC®認証紙を使用しています。